

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立新東三国小学校 学校協議会

1 総括についての評価

運営に関する計画で示された取り組みは、概ね計画通りに実施され、成果も認められる。学校教育目標の達成に向け、教職員が「チーム新東三国」を意識し、心一つに取り組んできた成果が少しづつではあるが実を結んできた。運営に関する計画を常にPDCAサイクルで実態把握し、点検・改善をしながら年間を通して遂行してきたことで、児童が主体的に行動し、意欲的に学習する姿勢につながった。また、学校全体が非常に落ち着いた環境となり、何事にも取り組める雰囲気につながっている。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 86%以上にする。
(R6 80%)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(R5 5.3%、R6 5.0%)
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(R5 1.1%、R6 1.%)
- ・年度末の児童アンケートにおいて「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で、肯定的回答を例年同様に 90%以上を維持する。
(R6 89.5%)
- ・年度末の児童アンケートにおいて「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
(R6 79.4%)
- ・年度末の児童アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
(R6 98.6%)
- ・朝会や道徳の授業などでいじめについて話したり考えたりしたことで、児童はいじめはいけないという意識を持つことができたのではないか。
- ・不登校や家庭に問題のある児童に対して、子どもサポートネットなどの外部機関と連携して対応していたことが効果があった。
- ・異学年交流や地域と連携してあいさつ運動などをすることで、子どもの自己肯定感が上がった。

年度目標：

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 42%以上にする。(R6 35.2%)
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。
0.1 ポイント以上…5年算数
0.01 ポイント以上…5年国語、算数、理科、4年理科

- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。 (R6 74.9%)
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 (経年調査 68.7%)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 65%以上にする。 (R6 66.6%)
- ・小学校学力経年調査における「国語（算数）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(R6 国語 64.9%、算数 52.8%)
- ・漢検の合格率を昨年度と同等以上を達成する。 (R6 69.1%)
- ・児童アンケート「英語が楽しい」と回答する児童を 80%以上にする。 (R6 87.4%)
- ・英検 Jr. を 4 年生以上の児童が受検し、ブロンズ、シルバー、ゴールドの各級受検者の平均点が、それぞれ全国の平均点以上になるようとする。
R6 ブロンズ（本校 81、全国 81）、シルバー（本校 84、全国 84）、ゴールド（本校 78、全国 74）
- ・複数の小学生新聞を活用し、朝学習で視写に取り組む。小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に「そう思わない」（難しいと思わない）「どちらかといえば、そう思わない」（どちらかといえば、難しいとは思わない）と答える児童の割合を 45%以上にする。 (R6 40.6%)
- ・「学校では、食べ物や栄養について学んでいる」という項目の肯定的な回答割合を 85%以上にする。 (R6 91%)
- ・児童アンケート「そうじはいつも丁寧にしている」の肯定的回答を昨年度と同等以上にする。 (R6 92%)
- ・毎週の清潔調べで、ハンカチ・ティッシュを持ってきている児童の割合を 85%以上にする。 (R6 89%)
- ・年度末の児童アンケートにおいて「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で、肯定的回答を例年同様に 90%以上を維持する。 (R6 91%)
- ・年度末の児童アンケートにおいて「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 (R6 84%)
- ・年度末の児童アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。 (R6 98%)
- ・イングリッシュデイは子どもが楽しかったようなので、英語が楽しいと感じることができたのではないか。
- ・全学年で、様々な食育に取り組んでいることや、取材を受けたことで「学校では、食べ物や利用について学んでいる」というアンケート項目にあらわれた。
- ・様々な運動に関する取組によって、子どもたちが運動に興味をもって楽しんで取り組めている英検 Jr や漢字能力検定は目標になると思う。

年度目標：

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の50%以上にする。(R6 20.1%)
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。(R6 89.3%)
(※基準1 次のア及びイの基準を満たすこと
 - ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにする。
 - イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにする。)
- ・学習者用端末を活用した学習を週2回以上実施できた。
- ・児童アンケート「道徳科の学習で、しっかり考えることができた」の項目で肯定的回答を70%以上にする。
- ・校内研修を活性化させ、若手も経験年数の多い教員も一丸となって「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進する。
- ・「特色ある図書館の活用」の実現を図る。
- ・読書活動の推進を図り、児童アンケート「本をよく読んでいる」の項目において、肯定的回答を昨年度同等以上にする。(R6 71%)
- ・生涯学習ルームや地域活動協議会との連携による安全で安心な教育コミュニティを形成する。
- ・毎月、目標冊数を達成した児童を発表することで子どもたちのやる気が続いた。また、途中からでも挑戦できるようになった。
- ・学習者用端末の使用方法が学年によって違う。学年に応じたさらなる活用方法を考えていく。
- ・道徳科に力を入れたことで、いじめ防止や落ち着いた学校につながっている。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・今後も教職員で一つになって様々な取り組みを進めていてほしい。
- ・学習者用端末の活用も必要だが、実際に体験することも大切。
- ・保護者や地域と連携して教育活動を展開していくってほしい。